

発 言 通 告 書

発言者氏名	井坂 直
発言の会議	平成30年 6月 6日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長

【件名及び発言の要旨】

1 市役所本庁舎建てかえと市役所のあるべき姿について

- (1) 建築後 34 年がたち、現在の本庁舎において日常業務は円滑に進められているのか。庁舎内にて会議や打ち合わせなど行うスペースが不足しているようだが、市長の認識を伺う。
- (2) 横須賀市本庁舎配置適正化実施計画では、「2号館及び分館は、建築後 70 年を目安に建て替えを検討します」と書かれている。2号館は 2038 年に建てかえる予定と読み取れるが、解体・撤去し既存の場所に新築するまでの間、市民部・土木部・総務部・港湾部・環境政策部などはどこに仮移転するのか。そもそも現時点でそこまで想定されているのか、市長に伺う。
- (3) 将来、法制度の改正や行政機能の規模が変化することは留保したとしても、現実的には各施設とも現状の場所で建てかえを進めていく形が望ましいか、分散化も視野に入れて検討するのか、市長の考えを伺う。
- (4) ファシリティマネジメントを進めてきた上地市長が考える市役所本庁舎のあり方とはどのようなものか、現状と比較して伺う。
- (5) 来年度行う予定の空調設備改修の際は、時代に即した即効性

のあるエアコンディショナーを設置するべきではないか、市長の考えを伺う。

- (6) 障害の有無、年齢、性別や国籍にかかわらず、多様な人が気持ちよく使えるようにデザインする考え方は、これから取り入れることができると考える。「誰もひとりにさせない」まちづくりを進める市長の考えを伺う。
- (7) 本市において市役所本庁舎の建てかえを経験した職員はほとんどいないのではないかと思われる。いずれ必ず直面する課題に対して、今できること、備えることがあるはずだ。そのための足がかりをつくることは後世のために間違いなく役立つ。上地市長の時代に礎を築く準備を進めていただきたいが、お考えを伺う。

2 (仮称) 横須賀火力発電所新1・2号機建設計画について

- (1) 4月27日に、兵庫県高砂市の石炭火力発電所リプレース計画の中止が発表された。事業者は中止理由として「電力需要の減少が見込まれる」ことを挙げている。高砂市の建設計画中止、外務省と環境省の動きなど、この間の国内の動きを市長はどのように受けとめているのか、伺う。
- (2) 2月の代表質問において市長は「委員の皆様のご意見をしっかりと聞きした上で、準備書に対する市長意見を提出していきたい」と述べていた。神奈川県知事に対しての横須賀市長意見は、6月中旬に提出する予定であるかと思われるが、どのような内容の意見をお考えか伺う。
- (3) 倉坂秀史千葉大学教授は「石炭火力発電の運転開始は自治体財政に一時的な効果しか及ぼさない」「固定資産税収入が固定資産の減価償却に伴って減少していくことが大きく影響している」とし、「一時的な収入のために経済の持続可能性を損なうことは許されないであろう」と述べている。一度石炭火力発電所建設を容認したら、横須賀のイメージが「灰色」という印象が持たれてしまうのではないかと危惧するが、市長のお考えを伺う。